

北陸地方におけるウミガメの調査と保護活動

吉田祐輝・田端絵里・山田昇平・相原三菜子・桑野 暁・原 誠二・
松田勝明・水野麻里奈・山本沙耶

I. 目的

福井県立大学ふくいうみがめサークルは、大学のサークルとしては日本海側で唯一のウミガメ調査団体である。福井県では孵化後数か月の成長段階のウミガメの漂着という世界的に珍しい現象がみられる。当サークルではこの地理的特性を生かし、これまで明らかになっていなかった成長段階の生態や回遊ルート进行调查するとともに、地域との交流や、環境保護の啓発にも力を入れている。

II. 内容及び成果

1. 通年

1) 混獲調査

地元の漁業者の方にご協力をいただき、混獲が発生した場合現地へ向かい各部位の計測およびタグの取り付け（すでについていた場合は読み取り）を行い、日本ウミガメ協議会に報告する。

2) ビーチコーミング

浜を歩き、産卵の痕跡がないか、海岸にウミガメが漂着していないかを確認する。

3) 聞き込み調査

宇久漁港、矢代海岸で聞き込み調査及び地元

4) 漁師の方との交流

2. 5月

1) ポスター掲示

混獲があった場合報告をしてもらえるようポスターを作成、小浜市役所の管轄である人魚浜と、犬熊漁港、矢代海水浴場にポスターを貼らせていただいた。

2) ビーチクリーン

矢代海水浴場で浜の清掃活動を行った。学内にポスターを貼り参加者を募ったところ、サークル外から2名の参加があった。

3. 7月

1) ビーチクリーン

矢代海水浴場の清掃活動2回目。地元の方の協力を得て船で移動し、陸から到達できない浜の痕跡調査及び清掃を行った。

4. 8月

1) 学習会

ウミガメ協議会日本海支部長の島達也さんをお招きし、学習会を行った。日本海側でのウミガメ調査の現状と、島さんが取り組んでいるアカウミガメの子ガメの日本海側への漂着の調査について、教えていただいた。

2) 種子島の調査

産卵の多い種子島へ行き、元下関水族館職員増山良子さんにウミガメ産卵調査の技法につ

いて教えていただいた。また、自分たちも調査を行い、孵化に失敗し死亡した個体のサンプルを採集し、標本とした

3) 水族館でのタグ付け

越前松島水族館でのアオウミガメの放流の際に声をかけていただき、タグの取り付けと、各部の計測を行った。また、後述の成長速度についての合同調査について企画を始める。

5. 8,9月

1) 追跡調査

子ガメ追跡調査手法の確立をめざし、調査方法の検討を行った。既存の発信機ではカメの負担になる可能性が大きいと、小型のLEDを使用した追跡装置の検討、試作を行った。また、移動経路の海流とのかかわりを調査できないか検討を行った。

6. 9月

1) 講演会

島達也さんを再びお招きし、講演会を行った。ふくい・うみがめサークルの活動紹介、追跡調査の現状の説明および越前松島水族館での調査結果の発表、島さんには取り組んでいるアカウミガメの子ガメの日本海側への漂着の調査についてとウミガメを取り巻く諸問題について講演していただいた。

2) 学生会議

ウミガメについて調査を行う大学生が集ま

り、調査報告及び意見交換を行う。今年は三重大学で開催され、鹿児島大学、琉球大学、東海大学、宮崎大学が参加した。本サークルは今年の活動報告及び追跡調査について発表を行った。

3) 日本ウミガメ会議

ウミガメの保護、調査活動に携わる人たちの情報共有および意見交換の場として開催される日本ウミガメ会議に参加。今年は沖永良部島で開催され、ウミガメの成長速度について越前松島水族館と共同で行っている研究について発表する。

III. 今後の展望

混獲調査とビーチコーミングを継続して行っていきたい。聞き込みなどは専門家が行うと漁業者の方も批判されるのではと身構えてしまうため、私たち学生が聞き込みを行うことは有意義であろう。また、本年度の調査を通じて追跡調査と成長調査という課題を見出した。これについても継続して調査を行っていきたい。上述の活動は、対象がいつ、どこの海岸に現れるのかわからないため、地域の方々の協力が不可欠である。今後とも交流活動を積極的に行い地域皆でウミガメの調査、保護に取り組んでいけるよう努力していく所存である。

Research and conservation of sea turtles in Hokuriku region

Yuki Yoshida, Eri Tabata, Shohei Yamada, Minako Aihara, Akira Kuwano,
Seiji Hara, Katsuaki Matsuda, Marina Mizuno and Saya Yamamoto